養護教諭部会

Ⅰ．研究の概要

１．研究主題

健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして

２．主題設定の理由

近年の少子高齢化や都市化、急激に進展している情報のグローバル化など、社会環境や生活様式の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、生活習慣や環境に起因する疾患やアレルギー性疾患、新たな感染症の増加、心の病などの健康課題を多様化させている。同時に、人間関係の希薄化、幼少期に経験することが望まれる様々な生活体験・社会体験・自然体験の機会の減少は、他者への関心や愛着、信頼感を育てる大切な機会を減少させ人とのかかわりをつくることやコミュニケーションをとることがうまくできない子どもたちの増加につながっているように思われる。また、いじめ・不登校・貧困・虐待など様々な問題は子どもたちが安心して生活できることが難しい状況を生み出しており、児童生徒の健康問題との関連が深い。これらの健康課題において、対人関係によるストレスや不安などで、からだに不調をきたす事例もあり、その背景には子どもたちの自己肯定感や自尊感情の低さが存在することが少なくない。

このように複雑で変化の激しい社会において、私たちは、子どもたちの自己有用感・自己肯定感（自尊感情）を高め、自分自身も他者をも大切にできる子どもを育てたいと考える。それをもとに健康に関する知識・技能をもち、自ら意思決定し・行動選択できる力、さらには他者とかかわる力を持つ子どもを育てたい。

そのためには、養護教諭として、子どもたち一人一人を大切に受容し、職務の特性を生かした実践をとおして具体的な対応や支援の在り方を探求することが重要と考える。具体的には、常に「養護」とは何かを問い続け、子どもの健康と人権を守り育てる養護実践を深めながら、確かな連携方法を模索し、家庭や地域社会、教職員に対する効果的な情報発信の方法を検討するとともに、健康課題について、家庭と学校が課題を共有しながら学校全体・地域社会全体で対応していく必要がある。

以上のように、複雑かつ多様化した子どもたちの健康課題に対し養護教諭の視点を大切にした取組が必要と考え、標記の研究主題を設定した。

研究の経過

平成16年度から平成25年度までの10年間、「健康について考え、自分らしく生きていくことができる子どもの育成をめざして」という研究主題のもと、子どもたちの個々の健康・発達課題に寄り添い、対応や支援の在り方を研究し実践してきた。子どもたちの健康課題は、ますます複雑で多様化している。その点を踏まえ、今後も養護教諭の特性を生かした養護実践を継承しつつ、さらに深め発信していくことが重要であるとおさえた。その課題解決に向けて、平成26年度から新たな研究主題を設定している。

新しい研究主題のもと、各ブロックは具体化した主題を設定し研究を推進してきた。さらに各ブロックの連携を深めることにも重点を置き、今日的な課題を共有し、より研究を深めてきた。さらに、第二次研究協議会の分科会は、研究計画に基づく、積極的な討議があり、理論・実技研修会では、会員一人ひとりの課題の解明と日常の養護実践に結びつく成果をあげている。

令和２年度は、多くのブロックで新たな研究に取り組むことになる。課題を明らかにし、研究の基礎を作り上げていく年度としたい。また、横のつながりを大切にし、他ブロックの研究も積極的に学び取るとともに、それぞれのブロックの研究に生かしていくように進めていきたい。

３．研究内容

＜研究内容１＞

子どもたちの実態を把握し、問題点を明確にする。

＜研究内容２＞

子どもたちが自己肯定感をもち、自分らしい選択をし、人とのつながりを大切にしながら生きていけるよう、支援の在り方を検討する。

＜研究内容３＞

保健室で気がついた子どもたちの実態について、教職員・家庭・社会にどのように発信し連携していくのか、その方法を検討する。

４．研究方法

（１）会員一人一人の日常実践に基づいた市町村ブロックの共同研究を推進する。
（２）理論研修会や実技研修会を開催し、日常実践や今日的な課題解明につなげていく。
（３）各ブロック間の連携を深め、より一層、研究が深まる取組をする。

Ⅱ．研究の経過と成果

１.全体の実践の経過

- ブロック情報・部会情報の発行
- 推進委員研修会ごとのブロック交流
- 部会ＨＰの更新

（1）役員研修会・推進委員研修会の内容

５月２５日　今年度の業務・研究計画の確認
５月２９日　研究協議会・理論研実技研・予算について
７月　３日　『石狩の教育』・研究報告集（ブロック研究レポート等）の作成
・ブロック理論研・実技研の内容交流について
８月１８日　研究報告集について
１０月　１日　次年度研究・ブロック反省について
１１月　９日　次年度研究について
２月１８日　研究活動の反省・次年度へ向けて

２.各ブロックの研究と成果

＜　石　狩　ブ　ロ　ッ　ク　＞

１．研究主題

「自らの命を守るために主体的に行動する子どもの育成をめざして」

２．研究内容

３年研究のまとめの年であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で研究は中途半端な状態でストップした。そのため今年度は３年次目とし、来年度まで研究を継続することとした。

昨年度残された課題

①保健室さらに学校という場を、子どもの側から考える
②私たちの思いや立場や考えを、教職員に伝えていく
③いろいろなことが保健室に持ち込まれているが、できること、できないことを教職員、保護者に伝えていく

上記の課題を踏まえて、新型コロナウイルス感染症の対応の交流を行った。不安になり神経質になっている子どもたちや保護者の状況や消毒作業・清掃活動・健康診断の実施への配慮・熱中症の予防・泊を伴う行事など様々なことを交流した。

３．研究の成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症という非常事態のため、十分に研究をすすめることができず、休校明けも二度のみしか交流を持つことができていない。そのため残された課題について取組や成果の検証までには至っていない。

今後は、新型コロナウイルス感染症流行下であるが、私たちが積み残してきた課題に迫れるよう、各自が実践を持ち寄りながら、更に交流を重ね、子どもが自らの命を守るため必要なことはなにか探っていきたい。

＜ 千 歳 ブ ロ ッ ク ＞

１．研究主題

心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして
～互いの多様性を認め合い、誰もが過ごしやすい環境作りへの取り組み～

２．研究内容

研究主題のもと、誰もが過ごしやすい環境づくりに焦点をあて研究を進めることにした。なかでも、性の多様性は目に見えず表面化しにくい。学校においても児童生徒から相談されることが想定されるため知識理解が求められる。

３年研究の１年次目となる今年度は、私たち養護教諭自身が性の多様性について学びを深めるとともに、教職員の意識や疑問点、今後の課題を把握することから始めた。

３．研究の成果と課題

性の多様性を知ることから始めようと、緑小学校の鶴見教諭が講師となり学習会を行った。基礎編から法制度や文科省の通知連絡文書の確認、性教育の現状や課題など様々な資料も用いて確認し学び合うことができた。更に秋に予定されている理論研修会では、当事者の方を講師に迎えることを予定している。

性の多様性について私たち教職員の正しい理解が必要であるとの考えから、①考えやイメージについて②カミングアウトについて③指導や学びについて④学校での対応についての項目を設定し、職員向け意識実態調査を行った。調査の結果、実際に対応した事例や対応の仕方について知りたいという自由記述が多数見られ、関心の高さがうかがえた。また、多くの教職員が相談相手として養護教諭をあげていることから、性の多様性について正しい理解がより求められていることを実感した調査となった。今後、年代別・校種別の分析をさらに深め、支援・配慮方法について検討していくこととする。

＜ 江 別 ブ ロ ッ ク ＞

１．研究主題

「みんなでつくる学校保健」　～より効果的な発信を目指して～

２．研究内容

研究１年目となる今年度は、「感染症」「ネット・メディア」「昨年の研究の延長上（色覚）」の３グループに分かれ、今後の研究の見通しを立てた。今年度の研究内容は、以下の通りである。

①「感染症」グループ

新型コロナウイルス感染症について研究を進めていくこととし、対策についてアンケートを実施。新型コロナウイルス感染症で感じた不満や悩み、わからなかったこと等について話し合いを行う。

また、１１月に行われた理論研「感染症について」の講演から、最新の知識を学び、理解を深める。

②「ネット・メディア」グループ

子どもたちがどのようなネットやメディアに触れているのか聴き取りを実施し、問題点について交流を行う。また、大人（教職員や保護者）が子どもに指導する際に活用できる資料の作成を検討する。

③「昨年の延長上」グループ

昨年までに作成した資料を見直し、今後の方向性や「おたより以外」の発信方法について検討する。

３．研究の成果と課題

各グループで発信していきたいことや課題となること等について話し合うことができた。今後、発信方法の工夫を行っていくためには、養護教諭自身がテーマについてさらに学び、知識を深めていく必要があると感じる。次年度は、今年度の研究を活かして実際に発信を行い、教職員・保護者の反応についても検証しながら、学校・家庭・地域全体で子どもたちの健康、安全を守れるような実践につなげていきたい。

＜ 恵 庭 ブ ロ ッ ク ＞

１．研究主題

自分のからだと向き合い、自ら選択し表現できる子どもの育成をめざして
～養護教諭のスタンスに立った子どもの支援と役割～

２．研究内容

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、計画通り研究をすすめることが困難となってしまった。そこで、児童生徒の心身の健康の保持増進に関わる養護教諭の重要かつ緊急課題として、新型コロナウイルス感染症対策を中心に研究をすすめることとした。

各校ごとに新型コロナウイルス感染症に関わる実践記録を作成し、また、休校後の子どもたちの様子についての交流を行った。感染症対策と熱中症対策との両立の難しさや、宿泊行事における学校としての対策の取り方、体温の確認方法、感染症対策における保健室経営の在り方ついて確認した。子どもたちの様子については、休校明けの不安感や体力低下によるけがの増加などが挙がった。

３．研究の成果と課題

新型コロナウイルス感染症の実践交流では、実践記録を作成したことで、地域の実態に合った状況や情報を共有することができ、自校の実践につなげることができ、また、休校明けの子どもの様子を交流できたことは、各校で今後の健康相談活動に生かせる内容であった。養護教諭からの情報発信の必要性と、教職員との連携の不可欠さを再確認することができた。

今後も、養護教諭のスタンスから、子どもや保護者への支援、学校内の支援体制の在り方などを模索していきたいと考えている。

＜ 北 広 島 ブ ロ ッ ク ＞

１．研究主題

子どもの心によりそった保健室をめざして
～保健室の執務を考える～

２．研究内容

今年度は、２年研究の１年次目になる。上記のブロック研究主題のもと、「相談活動グループ」と「健康診断グループ」に分かれ、執務の交流を行った。

相談活動グループは、１回のグループ研究で１～２名が発表者となり、レポートや資料を持参し、交流している。児童生徒の気持ちや訴えをどのように受け止め、学校としてどのように対応したかなど、事例の交流が中心である。

健康診断グループは、１回のグループ研究につき１～２個のテーマを決め、メンバー全員が毎回レポートや資料を持参し、交流している。テーマは健康診断実施時の【物の配置や児童生徒の動線、プライバシー保護について】や【新型コロナウイルス感染症への対応について】等である。

３．研究の成果と課題

相談活動グループでは、相談活動の事例交流を行う中で、養護教諭としてどう対応していくか、小グループだからこそ話し合いが深められた。だが課題としては、相談事例の詳細をレポートに載せる事が難しいため、別室登校に関わる事例も含め、学校としての体制・取組や外部との連携について、養護教諭としての働きかけや対応について焦点をあてて交流していく予定である。

健康診断グループでは、他校の健康診断の様子や工夫を聞き、効率的な方法や配慮の不足していた部分を知ることができた。課題としては、健康診断全般の実態という広い枠での交流になってしまったので、さらに深めるために、今後はテーマを絞って交流を進めていきたい。

＜ 当 別 ・ 新 篠 津 ブ ロ ッ ク ＞

１．研究主題

健康について考え、こころ豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして
～事例交流を通して、よりよい保健室対応について検討する～

２．研究内容

今年度は、養護教諭の職務の中心である「保健室対応」に焦点をあて、各校の事例検討を行った。

①近年、子どもたちのスマートフォン所持率が増えており、それに伴って、長時間使用することによる健康被害や、インターネットの不適切な利用の実態などの新たな健康課題がみられることがわかった。

②その場の対応だけでなく、日頃から開かれた保健室経営を実践し、子どもとの信頼関係を築くことが、有事の際の円滑な対応に繋がるということがわかった。

③何らかの疾病が疑われる子どもに対して、保護者へどのように受診を勧めるかなど、養護教諭としての日頃の対応における、よりよい方法についても話し合うことができた。

３．研究の成果と課題

保健室での事例を検討することで、よりよい対応のための方策について意見を出し合い、近年子どもにみられる健康課題について学ぶことができた。次年度は、挙げられた健康課題の中から、特に深めたいテーマを選び、解決のための取組や手立てについて検討していく予定である。

Ⅲ．各ブロック実技・理論研修会

今年度は石教研全体としての実技・理論研修会が行えなかったことから、ブロックごとに理論・実技研修会を開催し、その内容について紙面交流を行った。

〈当別・新篠津ブロック〉

理論研	テーマ	小中一貫校での学校保健、保健室経営の実際について		
	講師名	石狩市立厚田学園　　養護教諭　加納わかな教諭		
	実施日	10月6日（火）	場所	石狩市立厚田学園
	内容・成果	小中一貫校における学校保健の実際や、開校にあたっての準備についてお話を伺ったほか、厚田学園の新しい校舎の見学をさせていただいた。児童生徒は、1～4年（低ブロック）、5～7年（中ブロック）、8～9年（高ブロック）で計37名おり、すべての学年が同じ日課で生活しているとのことだった。人数が少ないため、校内の清掃活動は縦割り班で実施するなど工夫されていた。養護教諭は前期課程、後期課程両方の子どもたちへ対応するため、校内の掲示物などは、どの学年の子どもが見ても楽しめるような、わかりやすい内容のものを工夫して作成されているとのことだった。厚田学園は、厚田小学校、厚田中学校、聚富小中学校の3つの学校が閉校となり、聚富・望来・厚田・発足地区を校区として誕生した義務教育学校であり、開校にあたっては、保健室の物品の精選など、合併する学校同士で連携して、引っ越しの準備を進めていったとのことであった。また、学校保健安全計画については、他小中一貫校を参考にしつつ、厚田小・中の計画を踏襲した形で立案されたとのことで、1～9年生までで一貫した内容となっている。 当別・新篠津ブロックでは、令和4年に義務教育学校「とうべつ学園」が開校予定となっており、今回実際に小中一貫校の様子を見せていただけたことで、開校までの準備や、日常の保健室経営について、より具体的なイメージをもつことができた。		

その他のブロックについては以下の通り開催した。

〈石狩ブロック〉

１１月　５日（木）視察研『石狩市立厚田学園』

〈北広島ブロック〉

１１月１２日（木）理論研『保健室の相談活動』　講師：放課後等デイサービス　児童支援員　佐久間　文　氏

〈江別ブロック〉

１１月２０日（金）理論研『感染症について』　講師：北翔大学　教授　丸岡　里香　氏

〈千歳ブロック〉

１１月３０日（月）理論研『LGBTについて』　講師：真田　陽　氏　⇒　延期

Ⅳ．研究報告集の作成

今年度は、会員が一堂に会することが難しい状況であったが、“協働”研究推進のためには会員全員が研究に参画する必要がある。そこで、個別でもブロックでも取り組めるよう報告集を作成することとした。また、新型コロナウイルス感染症の対応を通じて研究を深めていくことができないかと考え、各ブロックでの対応をまとめることとした。

１．掲示物・保健室便利グッズ

今年度は紙面での掲示物・便利グッズの紹介を行った。工夫を凝らしたたくさんの作品を交流することができた。

緊急時対応セット

使い捨て遮眼子

２．新型コロナウイルス感染症の対応

「養護教諭の実践・支援」「各校の現状」「今、困っていることや交流したいこと」についてブロックごとにまとめ、紙面交流を行った。

児童生徒の実態として、臨時休校明けの生活リズムの乱れ、視力や体力の低下、感染症への不安やストレスからくる不登校や登校渋り、保健室への頻回来室等が挙げられた。養護教諭の実践・支援としては、保健だより、掲示物、パワーポイントなど様々な資料の作成、それを活用した「新しい生活様式」などについての児童生徒への指導が挙げられた。独自の「心のアンケート」を実施し、児童の実態把握と指導に活かした学校もあった。各校の現状としては、消毒方法や清掃活動、給食の対応、さらに、健康観察シートの活用方法や保健室来室者への対応などを交流した。

感染症対策をした上での健康診断の実施方法や今後の行事に対する感染症対策などに困難を感じている養護教諭が多いことから今後も交流していく必要性を感じた。

＊各ブロックの研究報告集については部会ＨＰにも掲載。

Ⅴ．部会研究の成果と課題

１．成果

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一堂に会することができなかったが、「健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして」の研究主題のもと、各ブロックが具体化した主題を設定し、研究を推進してきた。さらに、各ブロックでの研究レポートや理論・実技研修を紙面交流することにより、今日的な課題を共有し、より研究を深めることができた。また、研究報告集の作成により、新型コロナウイルス感染症への対応における各校の現状や取組を交流することができ、各校での実践につなげることができた。

２．課題

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りに研究を推進することが困難だった。次年度は引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、今年度の研究をもとに、各ブロックのテーマに沿ってさらに研究を深め、実践を重ねていかなくてはならない。そのためには、各ブロックでの研究が全会員のものとなるよう、他ブロックの研究も積極的に学び取るとともに、それぞれのブロック研究に生かしていけるようすすめていきたい。また、理論研修会・実技研修会は、今年度実施できなかった内容を、開催方法を検討・工夫しながら実施し、研修意欲の向上及び課題解明に結びつけていきたい。

（文責　　門松　未紗）